

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：矢向あけぼの保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：飯田 雅美	定員（利用人数）：60名 （利用人数：52名）	
所在地：〒230-0001 横浜市鶴見区矢向1-5-26		
TEL：045-581-7828	ホームページ： http://www.akebono-hoikuen.org	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2014年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人あけぼの会		
職員数	常勤職員：18名 非常勤職員：13名	
専門職員	保育士：20名	保育補助：3名
	看護師：1名	栄養士：1名
	調理師：2名	調理補助：3名
	事務員：1名	
施設・設備の概要	保育室：5	トイレ：2箇所
	調理室：1	事務室：1
	園庭：あり	

③ 理念・基本方針

【保育理念】

子どもの権利条約・児童憲章の精神に基づき、未来を担う子どもたちが心身ともに健康に育つことを願い努力します。そのために、子どもとかかわるすべての人々が安心して生きていける社会の実現をめざします。

【運営方針】

長年、共同保育で培ってきた「子どもをまん中に大人同士がつながり努力しあう」という子育ての理念に基づき、子どもたちが豊かに育ち、一人ひとりが尊重され、生きる力が育つ事をめざし保育にあたります。また、保護者が安心して子育てができるように、みんなで心を合わせ、ともに考え、ともに喜びあえる保育園をめざします。

【保育目標】

*ぼくもわたしも一人ひとりが主人公！意欲をもってどんなことにも挑戦しよう。

*思いっきりからだを使って遊ぶことが大好き！自然にふれながら五感をたっぷり育てよう。

*お友だちがいっぱい、仲間といることが大好き、思いやりの心を育て失敗も成功もみんなの力にしよう。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

園は最寄りの駅から徒歩10分程度と東京にも近い環境です。近隣には大小さまざまな公園や小学校、中学校、コミュニティセンターも近くにあり。また園近くに流

れる川沿いには遊歩道があり、散歩コースに利用したりしています。隣には、汐田総合病院があり、園医はその病院の小児科の医師で、子どもたちの病気などの情報の共有がしやすく、保護者も保育園の帰りなどに利用しやすい環境になっています。そういった環境のなか下記の取り組みを行っています。

屋外活動の充実・・・園庭もありますが天気の良い日は近隣の公園へお散歩へ出かけます。目的やその日の状況に応じて散歩先を決めています。0歳児クラスは、ベランダがあるので子どもたちの体調や生活リズムにあわせながら、少し気分転換できるよう活用しています。園庭では、思いっきり泥あそびができるように砂場に限らず、どこでも掘っていいことにしています。泥団子や築山もつくっていいように、黒土と川砂をブレンドしたものを使っています。夏は、組み立て式のプールを設置し水遊びを楽しむことができます。サンマやお芋・節分の豆まき時のイワシなどは、園庭で火おこしをして子どもたちと焼き食べます。その時は、年長さんが火おこしの体験をしています。年長さんはお泊り保育などで、自然豊かな場所で関わる機会をもち、実体験を大事にした保育を実践しています。

食育活動への取組み・・・・・・3階のベランダにプランターで季節の野菜を栽培しています。種まき、水やり、観察、収穫、を体験しています。土づくりでは、EM活性液を使った土の再利用をして、SDGsの取り組みを行っています。収穫物を使用したクッキング活動や給食提供で食への興味・関心を育てる取組を行っています。2歳児クラスから、クラスでお米をたいています。散歩や戸外活動からお部屋に戻った時に、焚けたご飯の匂いを感じるなど五感を刺激していく事も大事にしています。年長児が朝お米とぎをする活動やおやつに漬物が出る時は包丁で切るなど、日頃の生活の中で自然な食への取組みも心掛けています。「食べること」は子どもたちの心と体を育てるための、保育の中心的な存在です。園で提供する食材は、添加物不使用のもの、毎日摂取する調味料は安全な物を選びお米は減農薬のものを使用しています。野菜や果物は国産のものを用意し、季節を感じるメニュー作りを心がけています。

子どもたちひとりひとりを大切に取る取組み・・・・・・乳児クラスの特に0、1歳児は、担当制にしてひとりひとりの生活リズムや保育士との関係・つながりを大事にしています。幼児クラスは、たてわりのクラス編成にしており、異年齢で生活していくことかわりを大事にしています。時には学年別での活動も柔軟にできるよう、グループ別（学年別）も行っています。幼児クラスは、2クラスで協力や情報を共有できるようカリキュラムは合同で作成をしています。

はだして過ごす・布おむつの使用・・・・・・足は、第二の心臓といわれています。足の指を使ってしっかり蹴り上げ歩くことを大事にしています。布おむつを使用していることは、濡れたら気持ち悪いという子ども自身の感覚を育て、保育士も気かけ不快を取り除いてあげることで、信頼関係も作ることに繋がっていきます。その他、ごみを減らしていくことにもつながります。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年5月18日（契約日）～ 令和6年3月1日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2015年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)一人ひとりを大切にし、子どもの自主性を育てる保育を行っています
保育目標に「ぼくもわたしも一人ひとりが主人公」を掲げています。子ども一人ひとりを理解し、丁寧に向き合うことを心がけています。子どもの気持ちを尊重し、主体的に遊んだり活動できるよう環境を整えています。幼児クラスでは、自分たちで相談して決める事を学べるように見守ります。夏祭りには、お店を出したり、魚釣りゲームや劇をやったりと自分たちがやりたい事を企画しています。昼食時は自発的に盛り付けや食器運びをし、室内の好きな場所に机をどう配置するか、友だちと一緒に一人か等を自由に決めて食べています。活動の準備や片付けを協力し合っています。子ども達は自分で成し遂げたという達成感を感じることで、自信につながっています。諸君は、個人差を尊重し、各々の意欲や達成感が持てるように援助し、活動や遊びが広がるような関わりをしています。

2)子どもの生活と遊びを豊かにする保育に取り組んでいます

天候が良ければ、積極的に園庭遊びや戸外活動に出かけています。歩く事、自然に触れる事を大切にしています。食育の取組では、園庭で火をおこして魚を焼いたり、梅ジュース作り、クラスでご飯を炊く等行っています。土づくりにも挑戦しています。日常的に異年齢で交流したり、幼児クラスでは異年齢縦割り保育を実施しています。お互いにルールを守り、年下のお友だちを気遣ったり、協力し合うことで成長しています。コロナ禍後の地域住民との交流や、年長児交流会も機会が増えました。色々な経験を通し、子どもが健康で豊かな感性が持てるよう育てています。

3)地域との連携と地域への支援を行っています

隣が総合病院、階下が薬局、隣接して友の会会館があり、連携するとともに地域との交流が多くあります。近隣の小学校からは運動会やフェスティバルなどの行事に招かれています。園の夏祭りには地域の人を招待したり、近隣住民から笹や柵をもらったりと積極的に地域との交流を深めています。高齢者施設との交流もあり、コロナ禍で訪問出来ない時には手紙のやり取りをしています。地域子育て支援として園庭開放、育児講座、講習会、交流保育等を定期的で開催し、参加者が増えています。

4)中期計画の実践が期待されます

「法人・保育園中期計画」(2024~2028年度)の骨子ができています。今年度末の理事会承認後に正式な計画となります。法人としての重点課題と計画、系列園各園の中期計画と計画内容を明文化しています。矢向あけぼの保育園では、5か年計画の中に保育事業、施設整備、人材育成、防災、地域貢献、あけぼの後援会、エコ活動等の項目をあげ、具体的な取組をあげています。今後、取組の実践が期待されます。

5)職員の育成に向けた仕組みの明確化が期待されます

組織として職員の職務や必要とする知識・技術水準は職員個別評価シートに明示してあります。職員が自らのキャリアに見通しを持てるよう、個別研修計画と連動し、個別目標を明確にして、達成度と取組状況の評価する仕組みづくりが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を取り組み、保育園の運営・保育を深く振り返ることが出来ました。特に保育士どうしでの考えを伝え合うことで、認識の確認と違いを知ることができました。早速、次に取り組んでいく課題や深めていきたい内容を具体化することが

できました。運営についても、地域や保護者との連携の大切さをあらためて実感することができ、園の良さとして引き継いでいく事と、発展させていく課題の整理にもつながりました。次回の第三者評価を受けるときまで、少しでも良い方向へ進んでいけるよう努力していきたいと思います。

- ⑧第三者評価結果
別紙2のとおり